

ご挨拶



来るべき原子力災害に向かって

廣橋 伸之

原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター
放射線医療開発研究分野 教授

本年2月1日付けで原爆放射線医科学研究所（以下「原医研」）教授を拝命いたしました。私は、1989年に久留米大学を卒業し、同救命救急センターで研修後、大学院は免疫学で学び、米国Kansas大学へ留学後、1995年に新設された久留米大学救急医学に入局しました。ドクターヘリを含む高度救命救急センター勤務、国内留学を経て、2007年より広島大学救急医学准教授として診療、教育、研究を続けておりましたところ、2011年に東日本大震災、福島第一原発事故が発生しました。私はDMATおよび緊急被ばく医療隊員として出動し、原発内救急室などで活動しました。この複合災害に対する我が国の体制不備に対し、原子力規制庁は新しい原子力災害医療体制として、「高度被ばく医療支援センター」と「原子力災害医療・総合支援センター」を設置し、広島大学は両センターに指定されました。その中心部局である原医研が、実効性のある原子力災害医療の充実と強化に取り組む人材を公募したため、これまで従事してきた救急・災害医療、そして福島での経験を活かせるのではないかと考え、このたびの就任に至りました。私が担当する放射線医療開発研究分野はフィールド（原子力災害医療体制の整備）から基礎研究（放射線、低酸素等侵襲に対する生体防御機構）まで幅広い分野を対象とするユニークな教室を目指し、世界に知られている「Hiroshima」が、「原子力災害医学といえば広島大学」と呼ばれるようこれから頑張っていく所存です。福島原発事故から早や6年、来るべき次の原子力災害に向けて皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

熊本 卓哉

医歯薬保健学研究科 薬科学専攻
薬科学講座 創薬合成化学 教授

この度、武田 敬 教授の後任として、大学院医歯薬保健学研究科 薬学分野 創薬合成化学 教授を拝命いたしました 熊本 卓哉 と申します。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。私自身、これまで広島にはご縁がありませんでしたが、前職 武蔵野大学の学祖である高楠順次郎先生が広島出身ということもあり、何かのご縁を感じております。

私は金沢大学薬学部を卒業後、東京大学大学院薬学系研究科で博士号を取得、名古屋大学理学部で博士研究員を経験したのち、千葉大学薬学部で助手としてキャリアをスタートし、途中ベルギー留学を経て武蔵野大学に異動、そして現在に至ります。この間、一貫して有機合成化学、いわゆる「ものづくり」を基軸とした研究を行ってまいりました。

薬のほとんどは有機化合物であり、その性質や変化を理解する有機化学は薬学教育の基礎分野の一つであります。また、これまでに多様な化学反応が開発されており、必要に応じて新たな反応を開発しつつ、複雑な構造をもつ化合物も合成できるようになってきました。私はこれまでに有用な生物活性、特に抗菌・抗腫瘍活性をもつ天然由来各種有機化合物の全合成研究に携わってまいりました。最近では、他機関との共同研究で、ある特定の疾患に関与する受容体などを標識するプローブの設計・合成を行っており、新たな機能を持つ化合物の開発も併せて展開しております。

前職では薬剤師6年制教育を中心に活動してまいりましたが、今後は特に研究面での貢献が求められ、身の引き締まる思いです。微力ではありますが精一杯精進してまいります。諸先生方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。